

他者志向的な達成行動を動機づけるもの

— 自由記述からの検討 —

今井 真

(学習院大学人文科学研究科)

達成行動の際に語られる「他者のため」という意識に着目するものに他者志向的な達成動機がある。他者からの支援的な働きかけに対し、自身の達成をもって返報しようとするこの動機は、その定義や親の養育態度との関連を調べた先行研究(伊藤, 2010)から分かるように、他者からの支援的な働きかけが源泉として想定されている。

一方で、支援的な働きかけがあれば一様に達成へと動機づけられるわけではない。このことを踏まえ、ここでは他者志向的な達成行動を動機づける要因について探索的に検討する。

予備調査

方法 大学生9名に対し、自由記述式の質問紙調査を実施した。「あなたが頑張ることで『他者が喜ぶ』、もしくは『他者を喜ばせよう』として努力した経験についてお聞きします」という教示文の下、経験を想起させるための項目と、自身を動機づけた出来事に関する項目、その他者が他の人物とは異なる点を問う項目の計12項目を尋ねた。

結果 達成行動に関心を向けることから、予備調査、本調査ともに頑張った経験として他者に対する支援的な行動を挙げた回答者は検討から除いた。その結果、対象となったのは5名の回答であった。それぞれの活動内容(カッコ内は他者の属性)はA.学校外でのクラブ活動(親)、B.部活動(友人)、C.コンテスト(親・友人・ファン)、D.受験(親)、E.リハビリ(親)であった。

自身を動機づけた出来事について、Aはあらゆる方面での継続的な応援(いつも応援してくれた、人間関係の悩みについても聞いてくれた)、を挙げた。Bはメンタル面のサポートや、全体練習後の自主練習に至るまで常に側にいて支えてくれたことを挙げた。Cは全力での応援や、自身を大切に思ってくれているところを挙げ、Dは十分なサポートの提供によって、大切に何不自由のない暮らしを提供してもらったことを挙げ、Eはどのような状況においても心から応援して味方になってくれたことを挙げた。

その他者が他の人物とは異なる点について、A~Eはそれぞれ、何があっても自分のことを心か

ら応援してくれる点、親身になってくれる深さ、自分のことを大切に思ってくれているところ、大切に何不自由ない暮らしを提供してくれる点、一番信頼を置ける点を挙げた。

考察 自身を動機づけた出来事として、他者からの多岐にわたるサポートや達成に対する願いや期待の強さが挙げられたこと、他の人とは異なる点において、自身の成功を心から願うような姿勢について挙げられたことを踏まえると、他者志向的な達成行動は他者の意図が感じられることや、意図に伴う動機づけの強さを源泉とすることが示唆される。

本調査

方法 大学生161名に対し、自由記述式の質問紙調査を実施した。「『この人がいるから頑張った』という経験について思い浮かべ、以下の①~⑥の質問にお答えください」という教示文の下、経験を想起させる項目、動機づけた出来事、その人の役割、等の6項目を尋ねた。

結果 頑張ったこととして勉強や部活動等の達成行動を挙げた96名の内、自身を動機づけた出来事として、他者からの支援的な働きかけや応援等を挙げたのは36名であった。その中で、「いつも」等の継続性や「真剣に」、「一生懸命に」、等の動機づけの強さ、他者の意図、多岐にわたるサポート等に注目した回答は半数の18名であった。

考察 先行研究では個人の置かれた状況と適したサポートの種類に多くの関心が向けられてきた。そして、このことは多くの研究で支持されている。しかしながら、本結果はサポートの有無やその知覚に限らず、サポート源の保持する動機や意図そのものが達成行動に影響していることを示唆するものと考えられる。このような他者の思いを重視する傾向は、東(1991)の示す「気持ち主義」と重なる。今後はサポート源の意図を推測するための手がかりや、推測される意図に関する詳細な検討が求められる。

付記 本発表の一部は教育心理学会第66回総会で報告された内容を再検討したものである。